観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年 7 月 31 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人世界遺産平泉・一関 DMO	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 岩手県一関市、平泉町	
所在地	岩手県一関市上大槻街 1-5	
設立時期	2017 年 4 月 3 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	9 人【常勤 9 人（正職員 6 人・非正規職員 3 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 松本　数馬 代表理事 （出身組織名） 株式会社イーハトーブ東北	2017 年 2 月に株式会社イーハトーブ東北を創業し旅行業を開始する。また、地区 150 年の古民家改修を平泉町で実施し、1 泊 10 万円の高付加価値な宿泊施設を運営するなど、自社としても高付加価値観光コンテンツ開発に注力。加えて株式会社みずほ銀行をはじめ 12 年間金融機関に勤務していた経験を活かし、自社及び地域全体の経済循環についても高い見識と知見をもって事業推進にあたっている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 金森　理「専従」 （出身組織名） 株式会社松栄堂	大手化粧品会社にて商品企画を行ってきた経験を活かし DMO 全般、ブランディングを担当。 観光地域づくり及び土産物の商品開発の統括を行っている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 岩渕　宏介「専従」 （出身組織名） いわて平泉農業協同組合	いわて平泉農業協同組合に勤務した経験を活かし、主にふるさと納税部門を担当。 地元事業者や行政と連携を図り、ふるさと納税の新たな返礼品づくりなど、地場産品への高い知見をもって事業推進にあたっている。 令和 7 年度より CFO に就任。
デジタル責任者（ＣＤＯ：チー	（氏名） 佐々木　優弥 理事　CDO	岩手県の伝統工芸品である「秀衡塗」を取り扱い、伊勢志摩サミット G7 各国首脳への贈答品に採用される。

様式１

<table>
<tr><td>フ・デジタル・オフィサー）</td><td>（出身組織名）
有限会社翁知屋</td><td>近年では伝統工芸の体験や平泉の漆文化の説明などインバウンドの取組に尽力し、オープンファクトリー五感市実行委員長を務めた当 DMO 理事。</td></tr>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td colspan="2">岩手県県南広域振興局
経営企画部観光商業・食産業課
岩手県一関市商工労働部観光物産課
岩手県平泉町観光商工課

物販促進、受入体制整備、情報発信、受託に関わる連絡・調整等</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td colspan="2">○観光協会〔(一社）一関市観光協会、(一社）平泉観光協会〕
旅行商品開発、物販促進、受入体制整備、情報発信等
○商工団体〔一関商工会議所、平泉商工会〕
物販促進、ブランド化、マーケティング等
○観光施設〔中尊寺、毛越寺、げいび観光センター〕
旅行商品開発、受入体制整備等
○交通事業者〔JR 東日本、仙台国際空港、岩手県交通、一関地区タクシー業協同組合〕
旅行商品開発、二次交通対策等
○宿泊事業者〔岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合一関支部、岩手県旅行ホテル衛生同業組合東磐井支部、一関温泉郷協議会〕
旅行商品開発、受入体制整備等
○農業関連団体〔いわて平泉農業協同組合、農事組合法人アグリ平泉〕
物販促進、ブランド化、マーケティング等
○その他関係団体〔東北観光推進機構、伊達広域観光推進協議会、いわいの里ガイドの会、古都ひらいずみガイドの会、平泉町観光ガイド事務所、岩手ひらいずみ通訳・ガイドの会、蔵サポーターの会、観光交流ネット千厩、一関地区物産振興協会、ドンと市かわさき協同組合、みんなでつくる平泉、NPO 一関文化会議所、平泉町世界遺産推進協議会、一関市体育協会、平泉町体育協会、一関もち食推進会議、一関金融団、岩手・宮城県際広域観光推進研究会</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td colspan="2">DMO 法人、行政、観光協会、商工会等で構成する「一関・平泉ブランドデザイン機構」を DMO とは別に設置し、取り組みに関する連絡調整を行う。
その後、実務として意思決定を迅速に行うため、DMO 単体で事業展開を行う。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td colspan="2">宿泊施設、飲食店、一般住民を対象に、滞在・体験型観光の推進と受入体制の整備に向けた研修会やセミナー等を開催する。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td colspan="2">【活動の概要】
<table><tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr><tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・2018 年度　インバウンドプロモーション事業
台湾／東北プロモーション IN 台湾ブース出展（台北・台中）（台湾側参加者　台北 124 社　台中 86 社）
台湾／東北感謝祭参加（４市連携ブース）
フランス／パリ旅行博（SalonMondialDuTourisme)出展
・2018 年度　国内旅行プロモーション事業
日本最大の旅行博 VJTM 参加（海外旅行社 29 社と商談）</td></tr></table></td></tr>
</table>

		県、東北観光推進機構主催海外 AGT 商談会参加（３回） ・2019 年度　インバウンドプロモーション事業 台湾／東北プロモーション IN 台湾ブース出展（台北・台中・高雄）（台湾側参加者　台北 57 社　台中 57 社　高雄 58 社） 台湾／主要台湾旅行社１０社にてプレゼンテーション実施 タイ／JapanExpo（バンコク）ブース出展 タイ／主要タイ AGT４社にてプレゼンテーション実施 ・2019 年　国内観光旅行プロモーション事業 日本最大の旅行博 VJTM 参加（海外旅行社 27 社と商談） 県、東北観光推進機構主催海外 AGT 商談会参加（１回） その他海外 AGT、メデイアファムツアー斡旋多数 ・2018～2021 年　自主 HP による情報発信事業 2018 年から DMO の HP を開設。テイクアウト可能店舗の取りまとめや、観光体験情報の掲載などシームレスに観光客の求める情報を掲載中。 (2022 年の年間アクセス数約 4 万件) ・2020～2022 年　WEB 情報発信事業 まち泊ポータルサイト　まちたべポータルサイト ヒライズミーツ開設(2022 年　5,000PV/1 ヶ月) ・2019～2022 年　一関市ふるさと応援寄附推進事業 一関市から委託を受けて開始し、2020 年は寄付金額 2 億 8,000 万円、2021 年は寄付金額 7 億 4,800 万円、2022 年は寄付金額 15 億 5,700 万円、2023 年は寄付金額 14 億 5,000 万円を達成した。また、寄付者への発送、観光施設での掲出用にローカル紙「いちのせき日和、ひらいずみ日和」を 60,000 部発行 ・2024 年　平泉町の情報発信サイト「ヒライズミーツ」が年間 20 万 PV を達成。「ひらいずみくじ」によるアプリ開発も実施した。
	受入環境の整備	・2018 年　一関 Wi-fi 環境調査検討業務委託事業 Wi-Fi 環境の設置状況・整備状況について調査を行い現状を把握。今後の一関市の観光誘客増大に向けた Wi－fi 設置調査報告書を作成した ・2018～2022 年　インバウンド観光整備事業 フードダイバーシティインバウンド受入セミナーの実施(2018 年　32 名　2019 年　35 名) キャッシュレス推進セミナーの実施(2019 年　16 名) 食の多様性フォーラムの実施(2021 年　12 名) インバウンド対応研修(2022 年　15 名)

	観光資源の磨き上げ	・2018～2022 年　もち食観光推進事業 一関もち食推進会議の事務局運営 もちマイスター検定の実施(年 1 回実施、定員 20 名程度) ・2018～2022 年　産業観光イベント事業 オープンファクトリー五感市の事務局運営(来場者 2018 年約 2,000 名　2019 年約 4,000 名　2020、2021 年オンライン実施)　2022 年約 1,900 名 ・2018～2019 年　農泊推進事業 台湾現地研修＆プロモーション活動の実施(参加者 6 名) ワークショップやモニターツアーを通じて農業体験コンテンツを 4 つ造成 ・2019～2021 年　教育旅行誘致事業 県南広域振興局と連携してファムツアー現地視察の対応 ・2020 年　着地型旅行商品開発事業 新たな観光体験、周遊コースを 9 つ造成 ・2021 年　厳美地域観光拠点高付加価値化事業 一関市厳美渓において初めての夜間観光イベントであるプロジェクションマッピング及びライトアップの実施・運営(来場者 3,000 名)。 ・2021 年～2022 年　閑散期対策事業 真湯温泉において雪遊び体験施設いちのせき雪上楽園の実施・運営（入場者数 2021 年 1,152 名、2022 年 2,053 名)。 ・2022 年　観光地ブラッシュアップ事業 骨寺村荘園遺跡にて季節毎（夏、秋、冬）に新規コンテンツを造成し販売（参加者数 39 名） ・2022 年　俳句交流サイト「ハイ！一句」を立ち上げる ・2023 年　昨年に続き、真湯温泉において雪遊び体験施設いちのせき雪上楽園の実施・運営（入場者数 2021 年 1,152 名、2022 年 2,053 名、2023 年 887 名)。 ・2023 年　D-NEXT アンケート調査実施（回答数：289） ・2024 年　JR 大船渡線 100 周年に向けたアート企画の実施及び冬季の閑散期対策として雪上楽園の後方支援を行い事業の自走化を図った。

【定量的な評価】

①　閑散期対策等

雪上楽園においては、昨年の雪不足から盛り返し料金も値上げすることで自走化に向けての取り組みを図っている。(来場者数：2022 年 2,053 名、2023 年 887 名　2024 年 2,264 名　昨年比 255%)

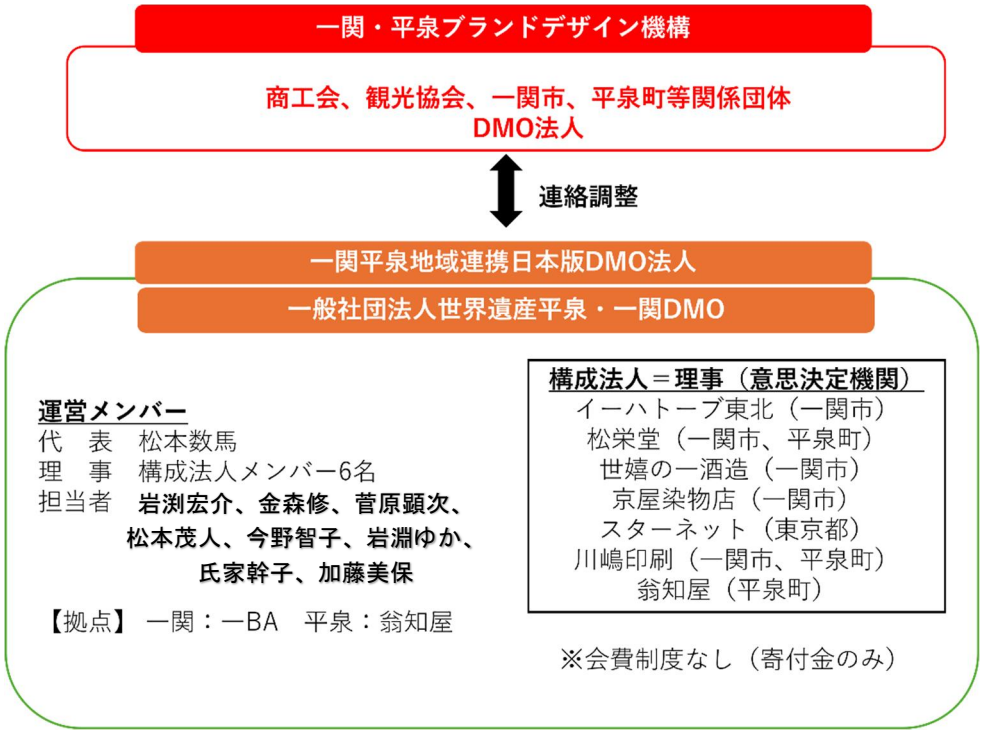
②　仕組みづくり

2020 年重点 DMO 認定により当地域に国の支援が受けられやすい体制に。一関市のふるさと納税額は 2024 年度で 16 億 6000 万円（昨年比 110%)。

③　地域課題への対応

人口減少対策として、コワーキングスペースー BA の継続運営。また、食肉関連事業者と共同体を企画し「一関肉フェス」を企画するチームを組成。それを軸とした産業振興に協力体制ができつつある。

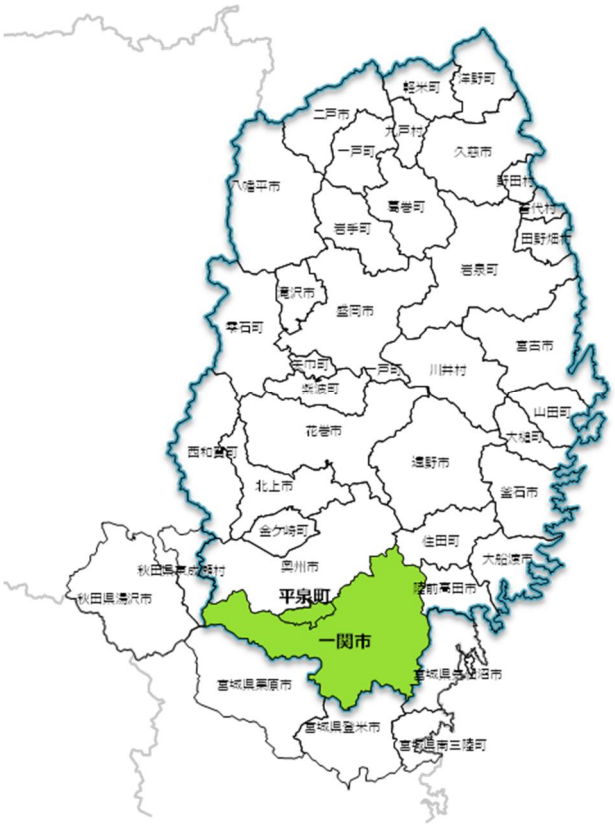
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** ・DMO 法人の意思決定を迅速に行う観点から会員制度は取らない。賛助会員として組織への支援（寄付金等）を募る。 ・一般社団法人の規約に則り、理事で構成する社員総会を最高意思けって機決定機関として、人事や決算承認等を行う。 ・DMO 法人、行政、観光協会、商工会等で構成する「一関・平泉ブランドデザイン機構」を DMO とは別に設置し、取り組みに関する連絡調整を行う。 **【実施体制図】** 

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

様式１



【区域設定の考え方】

一関市と平泉町は古くから同じ歴史や文化を持ち、通勤・通学・通院などの生活圏を共有する地域である。

さらに、急激な人口減少や高齢化が進む現在、これに適切に対応できる地域づくりのため、平成26年に「一関・平泉定住自立圏共生ビジョン」（中心市：一関市）を作成し、両市町の特性と機能を尊重しながら住民の立場に立った適切な機能分担による連携を図り、圏域の一体的な発展を図ることによる住み良い圏域形成を目指している。

本DMO法人は、世界遺産・平泉をはじめとして、両市町がもつ様々な魅力や恵まれた地域資源を生かしつつ、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを推進する組織であるため、当該区域設定とすることが適切である。

【観光客の実態等】

［日本人観光客］

本区域の令和元年の入込客数（延べ人数）は431万人回であり、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、令和2年の入込客数は211万人回、令和3年の入込客数は233万人回、令和4年の入込客数は326万人回、令和5年の入込客数は381万人回であった。令和元年と令和5年を比較すると、約11.6%の減少となっている。令和6年は385万人回となっている。現地ヒアリング等の結果から、令和6年の観光消費単価は15,107円／人、観光消費額は105.15億円と推計される。

［外国人観光客］

本区域の平成22年度の入込客数（延べ人数）は2.2万人回であったが、23年度は東日本大震災の影響を大きく受け3.7千人回にまで減少した。しかし24年度は前年度比3倍強の1.2万人回にまで回復し、その後25年度で前年度比1.2倍、26年度で1.4倍と大きく増加を続けた。令和6年度においては、当地域における外国人宿泊者数は62,287人となり、過去最高の宿泊者数となっている。

様式１

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

［世界遺産］

「平泉の世界遺産」は、仏国土（浄土）を直接的に表した建築・庭園の顕著で普遍的な価値が認められ、平成 23 年 6 月に世界遺産に登録された。

資産名	平泉 ― 仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 ―
構成五資産	中尊寺、毛越寺、観自在王院跡（かんじざいおういんあと）、無量光院跡（むりょうこういんあと）、金鶏山（きんけいざん）

また、平泉をさらに価値あるものとして世界にアピールするため、以下の登録資産の追加・拡張をめざす取組を進めている。

関連資産	柳之御所遺跡（やなぎのごしょいせき）、達谷窟（たっこくのいわや）、骨寺村荘園遺跡（ほねでらむらしょうえんいせき）他

［その他認定や選定された取組・遺産・資産等］

SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）、世界かんがい施設遺産、バイオマス産業都市
日本農業遺産（東稲山麓）

［区域内の代表的な観光資源］

分　野	一関市	平泉町
史跡・寺社・仏閣	骨寺村荘園遺跡、旧沼田家武家住宅、鉄五輪塔地輪、村上家住宅、室根神社、大籠キリシタン史跡	観自在王院跡（世界遺産）、無量光院跡（世界遺産）、柳之御所遺跡、高館義経堂、中尊寺（世界遺産）、毛越寺（世界遺産）、達谷西光寺
自然・公園	須川高原、厳美渓、釣山公園、祭畤スノーランド、栗駒山、束稲山、花と泉の公園、薄衣城址、黄金山キャンプ場、室根山、猪鼻渓、幽玄洞、小黒滝、アストロロマン大東	金鶏山（世界遺産）
観光施設	一関市博物館、酒の民俗文化博物館、サハラガラスパーク、千厩酒のくら交流施設、石と賢治のミュージアム、東山和紙紙すき館、芦東山記念館、岩手サファリパーク	平泉文化遺産センター
温泉	一関温泉郷	平泉温泉
その他	道の駅厳美渓、道の駅かわさき、ベイシー（ジャズ喫茶）、世嬉の一（蔵元レストラン）	道の駅平泉
伝統行事・祭り、イベント等	大原水掛け祭り、室根神社特別大祭、全国地ビールフェスティバルｉｎ一関、全国もちフェスティバル、一関・平泉バルーンフェスティバル、一関夏祭り ぼたん・しゃくやく祭り、川崎夏祭り、せんまやひなまつり、藤沢野焼祭	元朝詣り、毛越寺二十日夜祭、中尊寺節分会、中尊寺西行祭短歌大会、春の藤原まつり、毛越寺曲水の宴、平泉芭蕉祭全国俳句大会、毛越寺あやめ祭り、平泉水かけ神輿、中尊寺薪能、平泉大文字送り火、毛越寺萩まつり、中尊寺菊まつり、秋の藤原まつり

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

エリア	施設数	客室数	収容人数
一関市	51 施設 （内 2 施設休業中）	1,347 室 （内 18 室休業中）	3,134 人 （内 75 人分休業中）
平泉町	8 施設	93 室	413 人

計	59 施設	1,440 室	3,547 人

［観光資源活用の方策］

数多くの観光資源を個々に情報発信することは、膨大な情報が平板に並べられることとなり、かえって観光客には伝わりづらくなる。

そこで、知名度があり集客性を有する観光資源を核として関連する観光資源をつなぎ合わせることで、観光客の流れを生み出すことが必要である。

この場合、単にいくつかの観光資源をセットにしてパッケージ化するのではなく、ストーリー性を持つことによる観光資源間のつながりの創出が重要であるため、いくつかのストーリーを基にしたパッケージをつくることを検討していく。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

〔鉄道］

出発駅	東北新幹線	到着駅	東北本線	到着駅
東京	約 1 時間 58 分（最速）	一ノ関駅	9 分	平泉駅
仙台	約 21 分（最速）			
盛岡	約 23 分（最速）			
新青森	約 1 時間 36 分（最速）			

［車］

出発	東北自動車道	到着	東北自動車道	到着
川口ＪＣＴ	約 5 時間 50 分（444km）	一関ＩＣ	7 分（12km）	平泉スマートＩＣ
仙台宮城ＩＣ	約 55 分（88km）			
盛岡ＩＣ	約 58 分（92km）			
青森ＩＣ	約 2 時間 55 分（259km）			

［高速バス］

出発	東北自動車道	到着
池袋	約 5 時間 50 分（444km）	一関
仙台	約 1 時間 20 分（99km）	

［飛行機（仙台空港経由）］

出発		到着		到着		到着
札幌千歳	約 1 時間 15 分	仙台空港	車 約 10 分	仙台空港ＩＣ	東北自動車道 約 1 時間 15 分	一関
成田	約 1 時間					
名古屋（中部）	約 1 時間 10 分					
大阪（伊丹）	約 1 時間 15 分		バス 約 40 分	仙台駅	東北新幹線 約 32 分（最速）	
大阪（関西）	約 1 時間 15 分					
神戸	約 1 時間 30 分					
広島	約 1 時間 45 分					

福岡	約 1 時間 45 分		電車 17 分			
出雲	約 1 時間 55 分					
那覇	約 2 時間 35 分					

［飛行機（いわて花巻空港経由)］

出発		到着		到着		到着
札幌(新千歳)	約 55 分	いわて花巻空港	車 約 5 分	花巻空港ＩＣ	東北自動車道 約 40 分	一関
名古屋（小牧）	約 1 時間 25 分					
大阪（伊丹）	約 1 時間 35 分		車 約 10 分	新花巻駅	東北新幹線 約 25 分（最速）	
神戸	約 1 時間 45 分					
福岡	約 1 時間 10 分					

【外国人観光客への対応】

・一関市と平泉観光協会では７カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）音声ガイドペンを導入し、増加を続けるインバウンドに対応している。

・平泉町内の観光施設では、タブレットやスマートフォンで利用できる多言語映像通訳サービスを提供するとともに、外国人観光客向け消費税免税制度の活用により、免税店となるなどの対応を進めている。

・令和３年 11 月に文化体験・インバウンド対応施設「平泉世界遺産ガイダンスセンター」がオープンした。外国人旅行客に説明の難しい奥州平泉文化を体感できる施設として、集客の起点となるよう連携して PR・集客活動を行っていく。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	一関市及び平泉町で収集している各種観光データ。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	当社のホームページの調査データ。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	D－next にて推定して実施

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

様式１

岩手県一関市、平泉町は世界遺産や国定公園、天然記念物があり、年間観光入込客数がそれぞれ 200 万人を超える東北を代表する観光地である。しかし、中尊寺毛越寺厳美渓猊鼻渓などの主要観光地のみを訪問する通過型観光地となっているのが現状で、宿泊率は 2%に留まっている。夜間、早朝のコンテンツが限られており、当地域への観光後は近隣の大型温泉施設を有する市町に流れてしまうことが一因と考えられる。

また、当地域は GW と秋の紅葉シーズンをハイシーズンとし年間 200 万人の観光客を集客しながらも、冬場の観光資源に乏しいことから、年間利益を冬場に打ち消してしまう事業者が多く、観光業が産業となりきれていない。年間を通じた誘客促進を行うことが、持続可能な地域経営には必要であると認識している。

インバウンドについては 2023 年度までは 7 割の外国人観光客が台湾人となっており、他のアジア国(中国、タイ、マレーシアなど)や欧米諸国へのプロモーションは不十分である。さらに国内観光客と同様かそれ以上に通過型観光地化が進み、宿泊率の伸び悩みが課題となっている。仙台空港における香港線や高雄線の就航に合わせ双方向の往来が求められている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ・世界遺産「平泉」 ・栗駒国定公園の自然資源 ・数多い観光資源や知られていない魅力 ・近年人気が高まるイベントや、伝統的な祭り ・人気の食や伝統的な食文化 ・沿岸部や被災地と近接する立地条件と、被災地視察ニーズの高まり ・遠方からの交通利便性の向上 ・需要の高い情報発信ツールの導入 ・一関・平泉地域へのインバウンド観光の増加 ・観光客の満足度、再訪意向が高い ・ＩＬＣ国内候補地としての注目度の高まり ・SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）(旧食と農の景勝地)の認定や「世界かんがい施設遺産」の登録 ・農産物の販売額県内 1 位、東北 2 位 ・多様な組織、人材、文化の存在	**弱み（Weaknesses）** ・短期滞在型、通過型の観光地 ・冬季期間における閑散期 ・平泉の宿泊施設の不足 ・不十分なインバウンド対応 ・外国人への「東北」の認知度の不足 ・中尊寺と毛越寺以外の知名度やＰＲの弱さ ・二次交通アクセスの利便性の不足 ・グルメや土産の魅力不足や提供の機会不足 ・点在する観光資源の活用、ネットワーク不足 ・観光に係る人材不足 ・関係機関どうしの協力・連携体制の不足 ・駅前の寂しさ、受け入れ体制 ・観光客数の平準化 ・ガイド（通訳を含む）が少ない ・個人客用の観光コンテンツが少ない
外部環境	**機会（Opportunity）** ・国や県による観光立国の実現に向けた取組 ・台湾との定期便化や東北新幹線の延伸など、遠方からの交通利便性の向上 ・当地域へのインバウンド観光客の増加 ・客層や旅行形態の多様化 ・体験型観光や被災に視察ニーズの高まり ・三陸道開通による新たな観光コースの訴求	**脅威（Threat）** ・景気の低迷や震災による風評被害 ・人口減少、少子高齢化社会の進展 ・特にサービス業における、大手企業の進出（地元企業への影響） ・都市間・観光地間の観光客確保の競合激化 ・国内旅行者の大勢を占めるシニア層の更なる高齢化と旅行需要の縮小 ・北陸新幹線の延伸

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 20 代～40 代の SNS リテラシーがありロコミ投稿をしていただける女性層（主に首都圏、東北都市圏）
○選定の理由 日本人 30 代女性は「東北地域への旅行満足度調査」で最も高い満足度と再訪意思を示した層であり、女子旅、グルメ旅、ファミリー層の取り込みも狙えることからターゲットとして設定。 更に 2023 年度アンケート調査では女性が全体の 62%、20 代～40 代が 56%、首都圏在住が 37.6%を占めており、いずれも岩手県全体の統計データよりも高いアベレージであった。 また、小団体旅行及び FIT において女性が旅行地を選ぶ傾向にあり、ファミリー層の取り込みにあたっては重要なターゲットとして選定。 その中でも今後のリピーターや新規顧客を獲得するために、SNS での投稿を残していただけそうな、SNS リテラシーの高い層をターゲットとして選定した。 ○取組方針 満足度調査などにより再訪・来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいて効果的に訴求するコンテンツの磨き上げ等を行う。 ターゲットへのプロモーションとしては、公式ＳＮＳサイト等による適正な情報の受発信などを行う。
○ターゲット層 台湾、タイ、北米の FIT
○選定の理由 当地域への旅行者の旅行手配手段のうち外国人旅行者の 5 割強が個人手配旅行である。また、当地域には FIT に好まれる資源（世界遺産平泉、栗駒国定公園の自然資源、伝統工芸、伝統文化）を有する。 国別には岩手県の往訪数が一番多くコロナ前には直行便も多くあった台湾人をメインターゲットとし 5 年後を見据えてアジア圏、ヨーロッパ、アメリカ方面へのターゲットを拡大していく。 ○取組方針 満足度調査などにより再訪・来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいて効果的に訴求するコンテンツの磨き上げ等を行う。 ターゲットへのプロモーションとしては、着地型旅行商品を開発し、さらに旅行会社と連携した情報発信を行う。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	美しき余白の地へ　～世界遺産平泉・一関～
②コンセプトの考え方	岩手県一関市、平泉町は日常とは違う空間、時間と出会い、こころを洗う、リセットする、感動する、自分の中のなにかが変わる場所です。都市部にある過剰な情報や群衆やノイズが無く、山、川、自然、いにしえの文化、自然の恵みである食、ごくごく当たり前のものが昔からそのまま佇んでいます。 これは、余白です。ここは、美しい余白を持つ地です。 例えば、中世から続く月を愛でる参道や中世から続く荘園の田んぼ、樹木の下にひとが眠る正しい生態系の森。 この余白に立つ時、ひとは豊かな空気の粒子を感じられるはずです。

	そんな旅を、滞在を、自然と暮らしへ寄り添う時間を過ごしに来ませんか。 ようこそ、美しき余白の地 世界遺産平泉・一関へ。 わたしたちが、ほんとうの豊かな旅をご案内します。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	部会、HP、事業報告会
	・地域戦略の策定にあたっては、DMO 法人、行政、観光協会、商工会等で構成する「一関・平泉ブランドデザイン機構」を DMO とは別に設置し、３ヶ月に一回程度取組に関する連絡調整を行う。 ・実際に事業に携わる主体が、分野ごとに専門的な立場から検討を行う場として、また、法人以外の事業者の参画の機会を確保する場として、上記機構への参加を呼びかける。 ・地域の観光・商工業・農業等のデータをとりまとめ、産業連携や観光振興方策の継続的な検討等、ＰＤＣＡサイクルに活用する。また、マーケティング調査を行い、継続的にＫＰＩを計測するとともに、戦略立案にも活用する。 ・地域内の観光関連事業者に向け、ニーズや現状に応じたセミナーを実施することにより、戦略の効果的な構築とともに関係者間の意見交換や情報共有も行う。 ・地域の弱みである「閑散期対策」のためイベントや持続性のある企画を造成する。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	・主力商品・看板土産や農産物等について、ブランド戦術（地域統一ブランドの検討）と知名度の向上を目的とした商標登録や広告デザインを企画し、品質の維持と向上を図る。 ・地域独自のユニバーサルデザイン指針を策定して関係者や地域住民との共有・協力体制を構築することにより、観光客へのサービスを向上させる。 ・Wi-fi の整備等データ取得及び観光客の利便性向上を目的とした事業を行う。 ・ＫＰＩの継続的な計測と評価を行ってＰＤＣＡサイクルを円滑に回すことにより、品質やサービスの維持と向上を図る。 ・二次交通の課題解消に向けた地域事業者との企画、PR を行う。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	・ＤＭＯのホームページ上で「情報発信」「宿泊・旅行商品の予約や決済」「問い合わせ対応」等を一元的に行う（ランドオペレーター機能・ワンストップ対応）。 ・当地域の公式ＳＮＳサイトを開設し、国内外への情報受発信（ローカル情報等含む）を強化する。 ・ＪＮＴＯ（政府観光局）や地域内の関連団体と連携し、 海外プロモーション活動を展開する

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	14,000	15,000	15,300	15,500	15,500	15,500
		(500)	(535)	(540)	(545)	(550)	(555)
	実績	5,493	7,673	10,515			
		(-)	(196)	(-)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	360	365	370	380	385	390
		(6)	(7)	(10)			
	実績	348	363	339			
		(-)	(9)	(-)			
●来訪者満足度（%）	目標	90	91	92			
		(90)	(91)	(92)			
	実績	72	76.6	86			
		(-)	(-)	(-)			
●リピーター率（%）	目標	40	41	43	45	47	49
		(18)	(18.4)	(19)	(19.5)	(20)	(20.5)
	実績	70	64	62			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

KPI については官民連携し改めてデータに基づいた目標設定を R7 年度中に検討していく

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
当地域の目標値設定にあたっては、これまで一関市及び平泉町で収集している各種観光データ等をベースにして設定したものである。その他の目標については、下記理由により当 DMO として取り組むべき KPI として地域の関係者で構成する DMO 推進委員会で協議し、設定にいたっている。

【設定にあたっての考え方】
各目標設定における考え方については以下の通り

旅行消費額・・・令和元年度（15,046 百万円）より令和 7 年度までに 3%増加を目指す
延べ宿泊客・・・令和元年度（347 千人）より令和 7 年度までに 6%増加を目指す
来訪者満足度・・・令和 4 年度以降 90%を目指す
リピーター率・・・令和 6 年度まで日本人にて 40%、外国人にて 18%以上を維持する

【設定数値の見直しについて】
観光地経営を行う上でデータ収集の上で地域にとって最適な数値目標を検討するため、年度内にワーキンググループを設定し改めて官民連携で設定を行うこととしている。

（２）その他の目標

様式１

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●ウェブサイトアクセス件数（当社ホームページセッション数）	目標	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000	550,000
		(30,000)	(35,000)	(40,000)	(45,000)	(50,000)	(55,000)
	実績	46,190	64,163	59,204			
		(1,372)	(1,339)	(1,000)			
●宿泊稼働率（%）	目標	40	43	45	46	45	45
	実績	41	43	39			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
当地域の目標値設定にあたっては、これまで一関市及び平泉町で収集している各種観光データ等をベースにして設定したものである。その他の目標については、下記理由により当 DMO として取り組むべき KPI として地域の関係者で構成する DMO 推進委員会で協議し、設定にいたっている。

【設定にあたっての考え方】
ウェブサイトアクセス件数・・・令和元年度の平泉観光協会のアクセス件数を参考に令和 7 年度までに 45 万アクセス、うち外国人 4.5 万アクセスを目指す

宿泊稼働率・・・令和元年度(41%)より令和 7 年度までに 5%増加を目指す

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	117,995,252（円）	**【市町からの補助金】 0 円** **【会費収入】 0 円** **【事業収入】 24,677,401 円** **【受託収入】 93,317,851 円**
2023（Ｒ５）年度	95,332,759（円）	**【市町からの補助金】 0 円** **【会費収入】 0 円** **【事業収入】 17,646,433 円** **【受託収入】 77,686,326 円**
2024（Ｒ６）年度	100,301,380（円）	**【市町からの補助金】39,000 円** **【会費収入】 0 円**

		【事業収入】 12,262,316 円 【受託収入】 88,000,064 円
2025（Ｒ７） 年度	160,000,000（円）	【市町からの補助金】 0 円 【会費収入】 0 円 【事業収入】 80,000,000 円 【受託収入】 80,000,000 円
2026（Ｒ８） 年度	180,000,000（円）	【市町からの補助金】 0 円 【会費収入】 0 円 【事業収入】 90,000,000 円 【受託収入】 90,000,000 円
2027（Ｒ９） 年度	200,000,000（円）	【市町からの補助金】 0 円 【会費収入】 0 円 【事業収入】100,000,000 円 【受託収入】100,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	97,104,020（円）	【顧客管理】 2,443,709 円 【プロモーション】1,562,047 円 【受入体制整備】 14,244,504 円 【自主事業】 52,544,893 円 【管理費】 26,308,867 円
2023（Ｒ５） 年度	96,033408（円）	【顧客管理】 2,298,128 円 【プロモーション】6,229,907 円 【受入体制整備】 12,219,573 円 【自主事業】 42,828,423 円 【管理費】 32,457,377 円
2024（Ｒ６） 年度	95,495,244（円）	【顧客管理】 4,091,443 円 【プロモーション】10,111,402 円 【受入体制整備】 10,832,535 円 【自主事業】 41,300,923 円 【管理費】 29,158,941 円
2025（Ｒ７） 年度	136,500,000（円）	【顧客管理】 5,500,000 円 【プロモーション】3,000,000 円 【受入体制整備】 15,000,000 円 【自主事業】 75,000,000 円 【管理費】 38,000,000 円
2026（Ｒ８） 年度	140,000,000（円）	【顧客管理】 6,000,000 円 【プロモーション】3,500,000 円 【受入体制整備】 15,500,000 円 【自主事業】 80,000,000 円 【管理費】 35,000,000 円
2027（Ｒ９）	151,500,000（円）	【顧客管理】 6,500,000 円 【プロモーション】4,000,000 円

年度		**【受入体制整備】** 16,000,000 円 **【自主事業】** 85,000,000 円 **【管理費】** 40,000,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

・自由度の高い自主財源を確保するため、下記に示す収益事業を実施する。
① ふるさと納税（委託料：人件費込）
② 観光商品の開発（販売手数料）
③ 教育旅行の開発・販売（販売手数料）
④ 農泊、民泊事業（手数料）

・その他、地域の関係者との連携関係を構築しながら、個別事業の受益者からは適切な負担を求める。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

一関市・平泉町は、一般社団法人世界遺産平泉・一関 DMO を当該市町村における（地域連携 DMO）として登録したいので一般社団法人世界遺産平泉・一関 DMO とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

該当なし

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	松本　数馬
担当部署名（役職）	代表理事
郵便番号	021-0881
所在地	岩手県一関市上大槻街 1-5
電話番号（直通）	0191-345-345
ＦＡＸ番号	0191-345-346
Ｅ－ｍａｉｌ	coba.ichinoseki@gmail.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	岩手県一関市
担当者氏名	鈴木　敏宏

様式１

担当部署名（役職）	観光物産課（課長補佐兼観光係長）
郵便番号	021-8501
所在地	岩手県一関市竹山町７番２号
電話番号（直通）	0191-21-8413
ＦＡＸ番号	0191-31-3037
Ｅ－ｍａｉｌ	toshihiros@city.ichinoseki.iwate.jp

都道府県･市町村名	岩手県平泉町
担当者氏名	佐藤　正和
担当部署名（役職）	観光商工課（課長補佐）
郵便番号	029-4192
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山 45-2
電話番号（直通）	0191-46-5572
ＦＡＸ番号	0191-46-3080
Ｅ－ｍａｉｌ	masakazu.s@town.hiraizumi.iwate.jp

（登録）【地域連携DMO】（一般社団法人世界遺産平泉・一関DMO）

様式2

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
岩手県　一関市、平泉町
【設立時期】 2017年4月3日
【設立経緯】
区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 松本　数馬
【マーケティング責任者（CMO）】 金森　修
【財務責任者（CFO）】 岩渕　宏介
【職員数】 9人（常勤9人（正職員6人・非正規職員3人））
【主な収入】
委託事業8,800万円、事業収入1,226万円、補助金3万円（令和6年度決算）
【総支出】
ふるさと納税事業費6,320万円、一般管理費3,229万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】

一関市観光協会、平泉観光協会、一関商工会議所、平泉商工会、中尊寺、毛越寺、げいび観光センター、JR東日本、仙台国際空港、岩手県交通、一関地区タクシー業協同組合、岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合一関支部、岩手県旅行ホテル衛生同業組合東磐井支部、一関温泉郷協議会、その他観光団体、農業関連団体、金融機東北観光推進機構、伊達広域観光推進協議会、いわいの里ガイドの会、古都ひらいずみガイドの会、平泉町観光ガイド事務所、岩手ひらいずみ通訳・ガイドの会、蔵サポーターの会、観光交流ネット千厩、一関地方物産振興協会、ドンと市かわさき協同組合、みんなでつくる平泉、NPO一関文化会議所、平泉町世界遺産推進協議会、一関市体育協会、平泉町体育協会、一関もち食推進会議、一関金融団、岩手・宮城県際広域観光推進研究会関　等

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	14,000（500）	15,000（535）	15,300（540）	15,500（545）	15,500（550）	15,500（555）
	実績	5,493（–）	7,673（196）	10,515（–）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	360（6）	365（7）	370（10）	380（15）	385（15）	390（15）
	実績	348（–）	363（9）	339（–）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	90（90）	91（91）	92（92）	93（93）	94（94）	95（95）
	実績	72（–）	76.6（–）	86（–）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	40（18）	41（18.4）	43（19）	45（19.5）	47（20）	49（20.5）
	実績	70（–）	64（–）	62（–）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
20～40代のSNSリテラシーがあり
口コミ投稿をしていただける女性層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
満足度調査などにより再訪・来訪意向につながる
要因を分析し、分析結果に基づいて効果的に
訴求するコンテンツの磨き上げ等を行う。
プロモーションとしては公式SNSサイト等による
適正な情報の受発信などを行う。

【観光地域づくりのコンセプト】
美しき余白の地へ　～世界遺産平泉・一関～

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・真湯温泉にてスノーパーク「いちのせき雪上楽園」を開設。
・骨寺村荘園遺跡にて食と体験をテーマにした新規企画を造成。
・もちマイスター検定を実施。

【受入環境整備】
・食の多様性フォーラムの実施
・インバウンド対応研修

【情報発信・プロモーション】
・当社ホームページ、メルマガ、各種SNSにて旬の情報を発信。
・ふるさと納税寄付者にローカル情報が掲載された紙媒体を発送。

【その他】
・一関市ふるさと納税受託事業にて納税額が昨年比倍増を達成。